

# 地方の常識

地域特性を活かした独自規格

第9回

## 砂を撒いて、歩こう



### 砂

を撒いて、歩こう。小学生もおばあちゃんもペットボトルをフリフリしながら歩いている。北海道では珍しくない光景である。



写真1 ご近所さんとペットボトルに砂詰め

皆さんは、スケートリンクを革靴で歩いたことがあるだろうか。われわれ北海道民は冬になると毎日、スケートリンク：もとい、積雪で凍りついていた歩道や横断歩道を歩いて通勤している。降り積もった雪が歩行者によって踏み固められた後、日中の陽射しで表面のみうっすらと解けはじめたとしたら夕方になりグツと温度が低下、カチンカチンのツルツル。旭山動物園のペンギンでも転ぶくらいである。

テレビのニュースでは、『忘年会で賑わうススキノでは今夜、歩行者の転倒事故が相次ぎ、3人が骨折するなどの重軽傷』。昨冬も酔っ払った私の上司が、ススキノで転倒し、おでこから流血。多量のアルコールによ

る麻酔が効いていたのが、そのまま飲み続けていたが、翌朝は病院で数針縫合。成人男性なら、傷跡も男の勲章で済むかもしれないが、女性や子ども、ご老人の場合はそのうはいかない。

道路管理者も日々、除雪・凍結防止剤散布とツルツル路面対策に奔走してくれているが、すべての歩道まで対処することは不可能に近い。そこで考え出されたのが、われわれ歩行者による歩道への砂撒きである。いわゆる摩擦係数 $\mu$ (ミュー)を大きくして滑りにくくする対策である。これは効果できめん。よく滑る場所、滑りやすい時間帯、好きなきに好きにだけ撒けるのが最大のメリットとなる。

北海道民は、家用車のスタック(駆動輪が積雪で空転してしまい身動きが取れなくなる状況)対策として、ホームセンターで買った砂袋10kgを常備している。この砂袋は重く、当たり前だが砂だらけで、そのまま撒こうものなら洋服が汚れる。じゃあ、重くない分量で汚れない方法を



写真2 完成品

考えようではないか。500mlか350mlのペットボトルに小分けしておけば重くないし、汚れない。どこへでも持ち運べる。町内会で協力して独居老人宅前を交替で撒くことは、きつと地域コミュニティ向上に役立つだろう。小学生でもおばあちゃんでも誰でもいつでもどこでも砂撒きできる。ペットボトルをフリフリ。こんな発想である。

春が来た。雪が溶けた。大量の砂が出てきた。道路管理者および維持管理者の皆様、春先清掃大変お疲れ様です！

木下将 日本工営(株)